

よしのせがわ
吉野瀬川ダム事業検証に関する検討

結果報告書 正誤表

平成23年9月

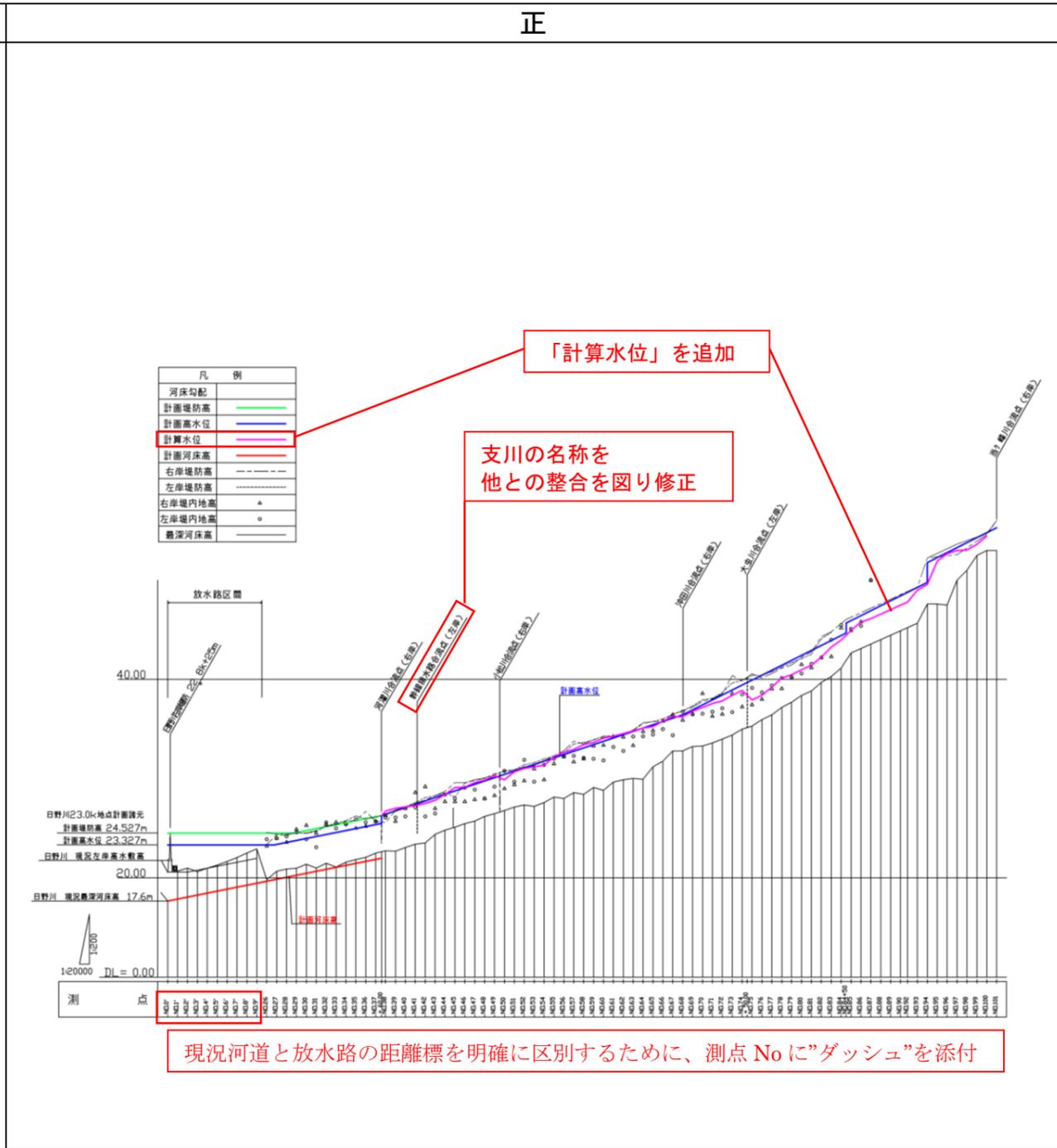
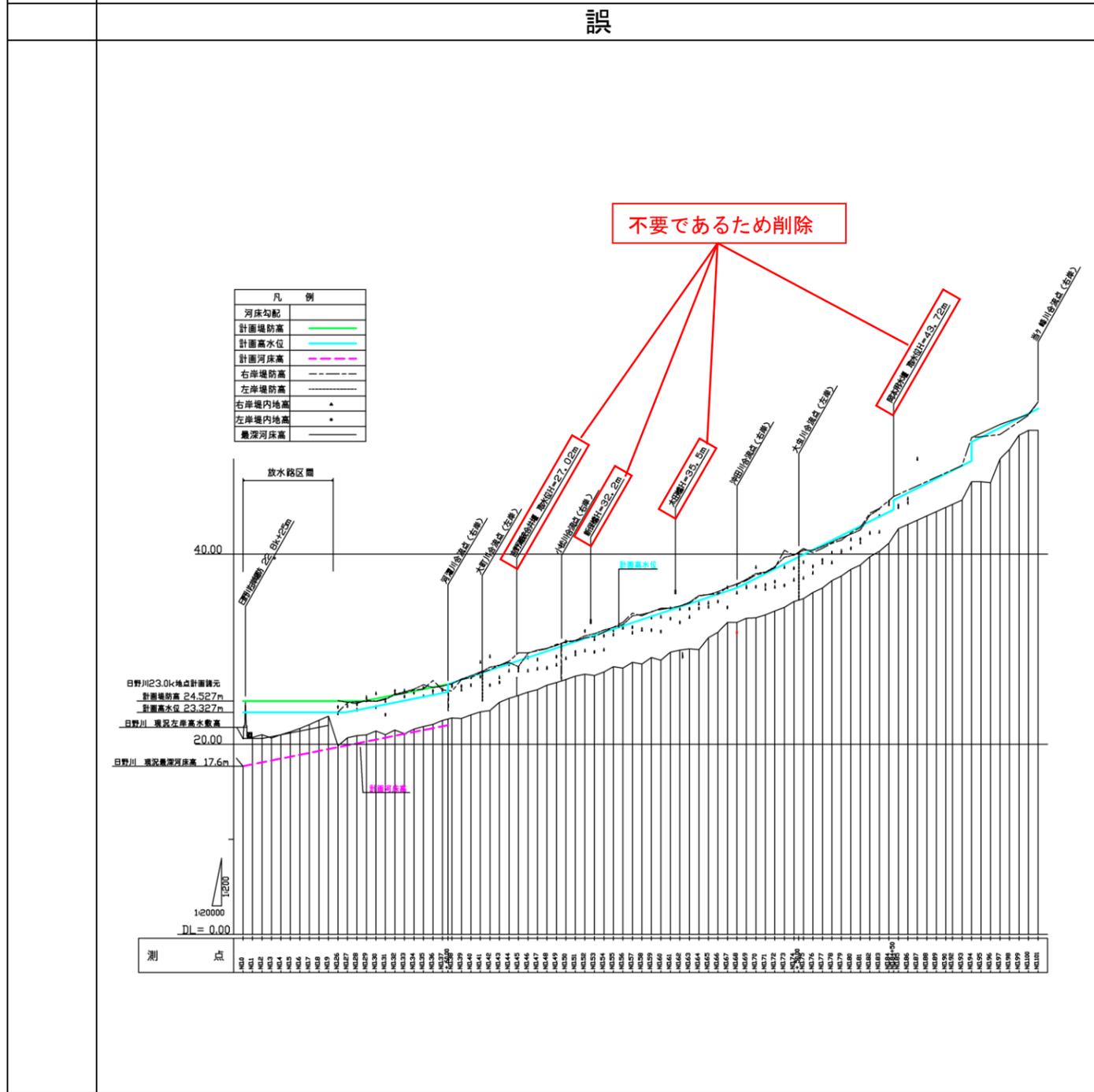
福井県

章	1. 検討経緯																					
項	1-2																					
箇所	表-1.1 「吉野瀬川ダム検証 県・市検討会」開催日																					
	誤	正																				
	<p style="text-align: center;">表-1.1 「吉野瀬川ダム検証 県・市検討会」開催日</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>平成22年10月28日</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>平成22年11月28日</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>平成23年2月10日</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>平成23年5月29日</td> </tr> </tbody> </table>	回数	開催日	第1回	平成22年10月28日	第2回	平成22年11月28日	第3回	平成23年2月10日	第4回	平成23年5月29日	<p style="text-align: center;">表-1.1 「吉野瀬川ダム検証 県・市検討会」開催日</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>平成22年10月28日</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>平成22年11月28日</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>平成23年3月14日</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>平成23年5月29日</td> </tr> </tbody> </table>	回数	開催日	第1回	平成22年10月28日	第2回	平成22年11月28日	第3回	平成23年3月14日	第4回	平成23年5月29日
回数	開催日																					
第1回	平成22年10月28日																					
第2回	平成22年11月28日																					
第3回	平成23年2月10日																					
第4回	平成23年5月29日																					
回数	開催日																					
第1回	平成22年10月28日																					
第2回	平成22年11月28日																					
第3回	平成23年3月14日																					
第4回	平成23年5月29日																					

章	3. 検証対象ダムの概要	
項	3.3 吉野瀬川ダム事業の現在の進捗状況	
箇所	3-9 上から2行目	
	誤	正
	<p>3.3 吉野瀬川ダム事業の現在の進捗状況</p> <p>用地補償は約 97% 完了し、水没地内の勝蓮花町、小野町 37 戸についても下流側の代替地への家屋移転が完了している。付替県道 武生米ノ線については、笠倉トンネルを含む下流側の約 2.8km を供用済みであり、現在、上流側の区間について工事を進めているところである。ダム本体については、これまでに調査、概略設計を完了している。</p> <p>総事業費 325 億円に対する平成 22 年度迄の進捗状況は、実施済額 170.5 億円、進捗率約 52% である。</p>	<p>3.3 吉野瀬川ダム事業の現在の進捗状況</p> <p>用地補償は約 95% 完了し、水没地内の勝蓮花町、小野町 37 戸についても下流側の代替地への家屋移転が完了している。付替県道 武生米ノ線については、笠倉トンネルを含む下流側の約 2.8km を供用済みであり、現在、上流側の区間について工事を進めているところである。ダム本体については、これまでに調査、概略設計を完了している。</p> <p>総事業費 325 億円に対する平成 22 年度迄の進捗状況は、実施済額 170.5 億円、進捗率約 52% である。</p>

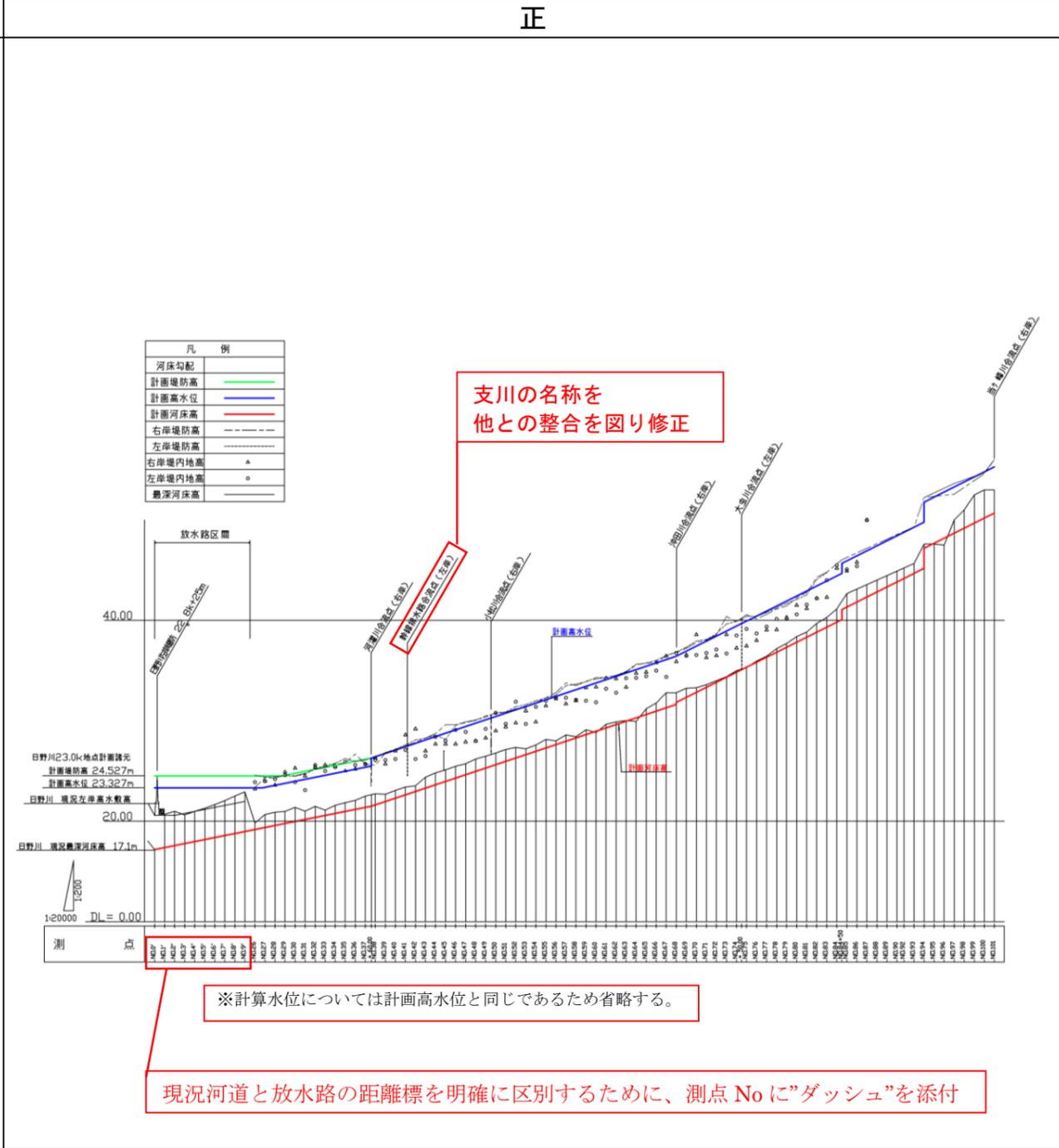
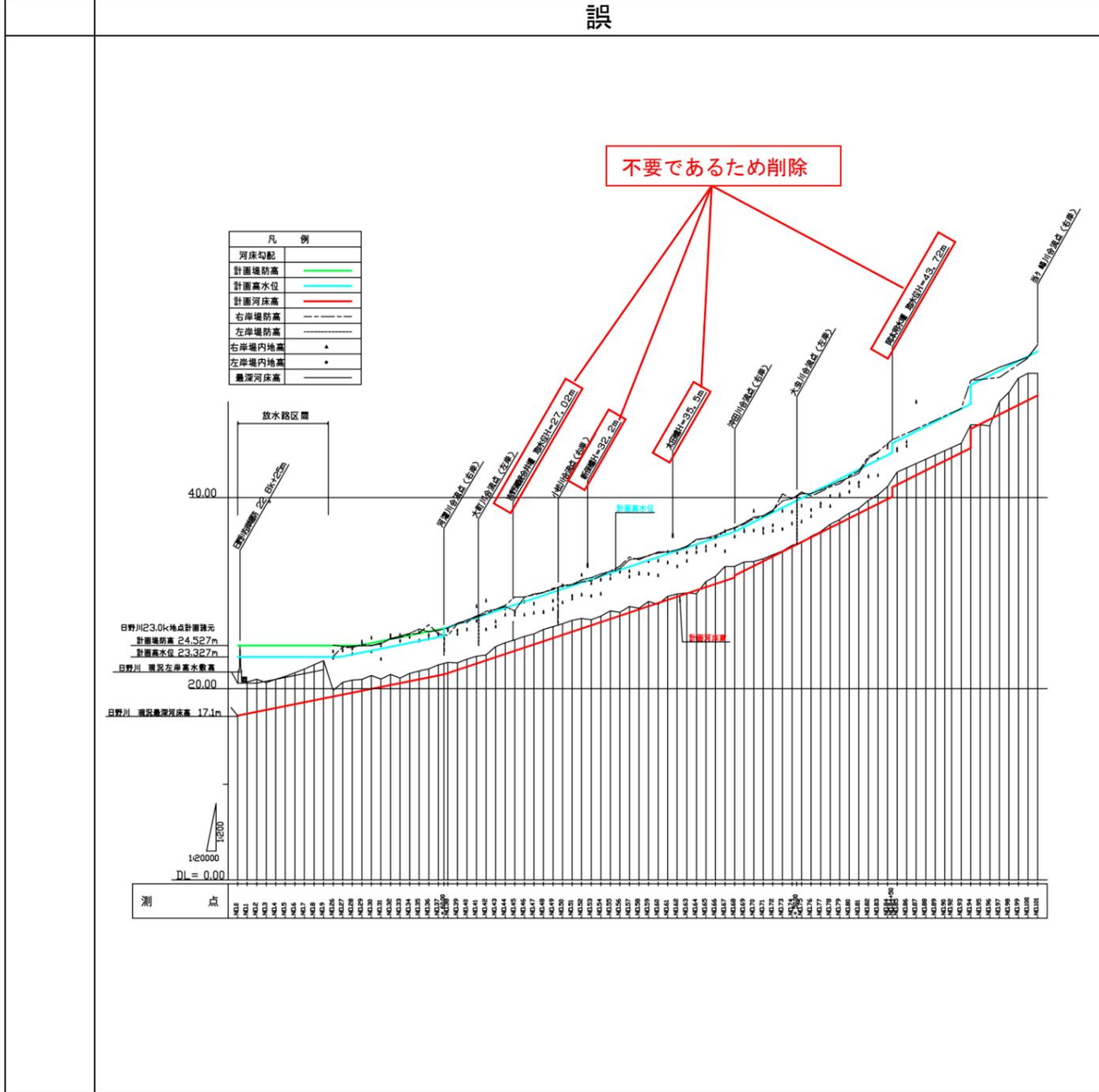
4. 吉野瀬川ダム検証に係る検討の内容
 4.3.1 ダム+河川改修案（現行計画）

項 4-47
 箇所 図-4.38-b ダム+河川改修案【河川整備計画】

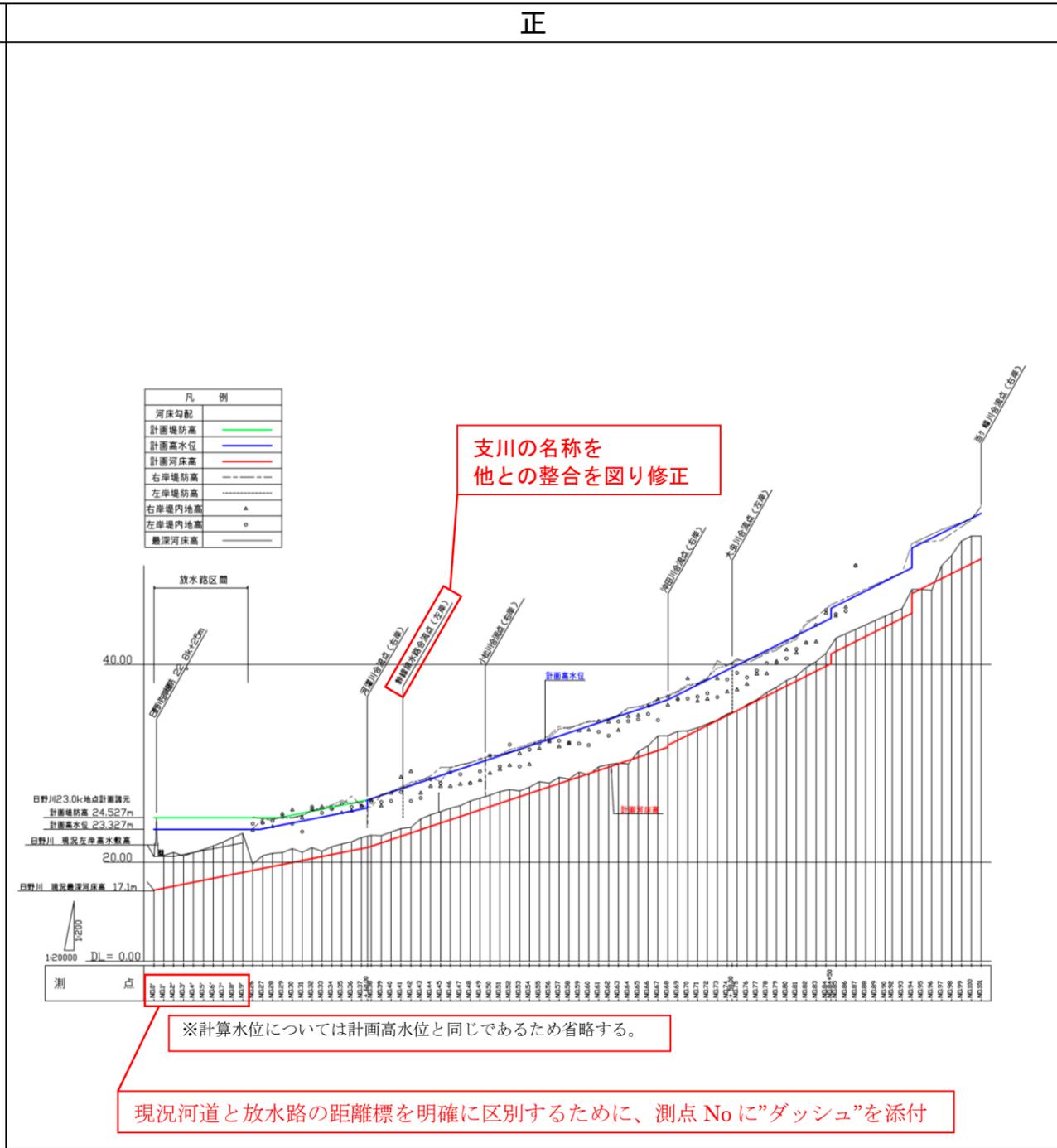
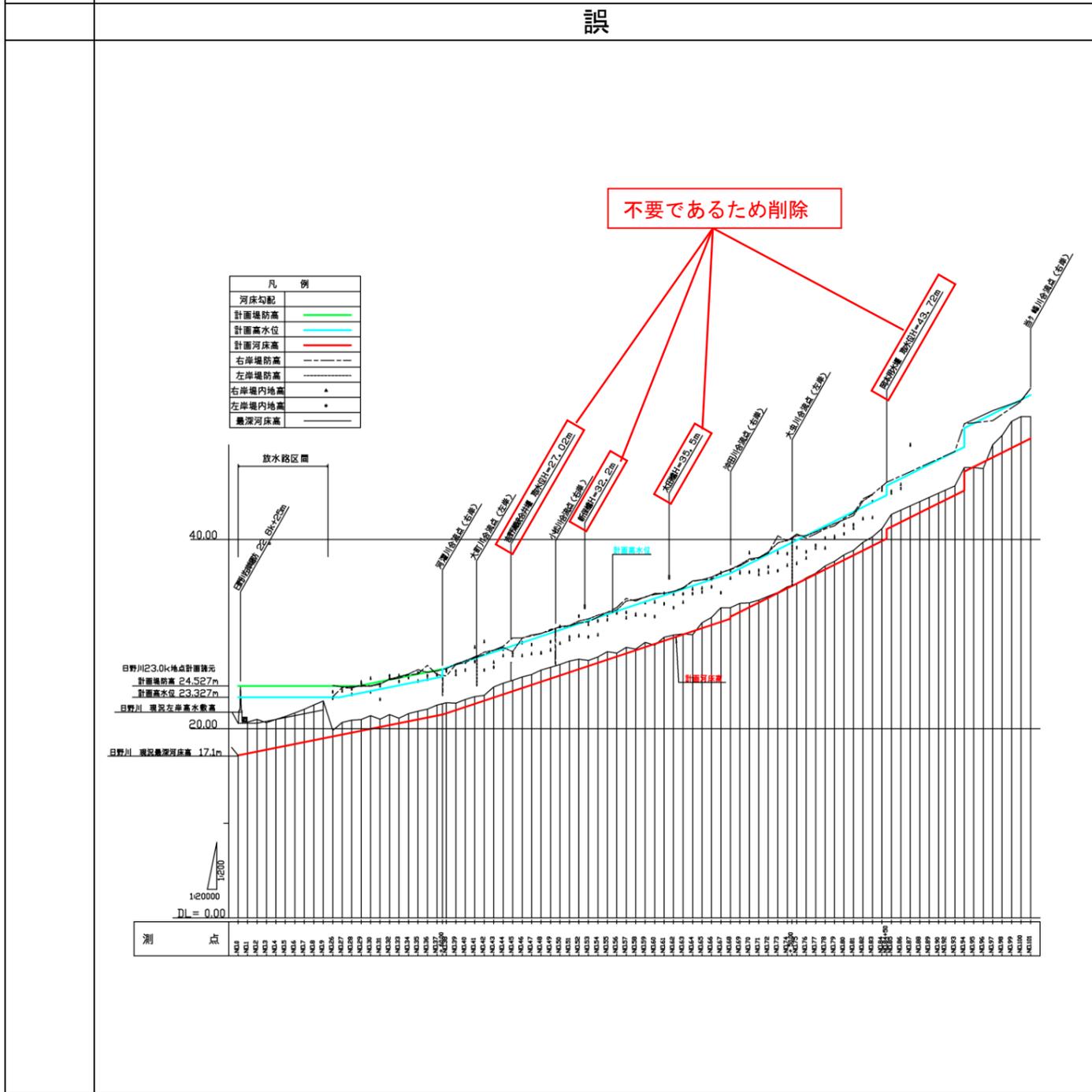


4. 吉野瀬川ダム検証に係る検討の内容
 4.3.2 河川改修案（代替案①）

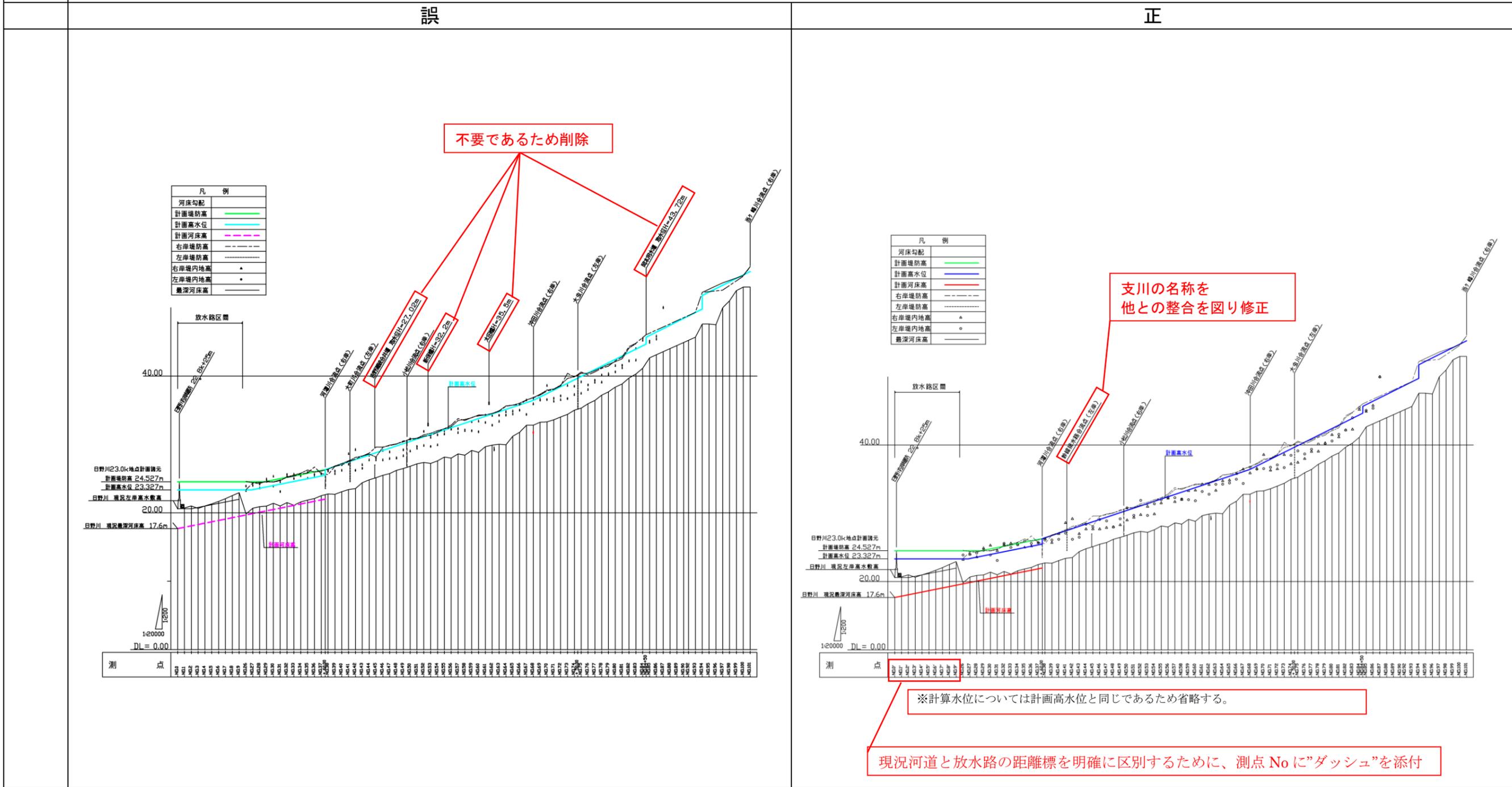
項 4-50
 箇所 図-4.39-b 河川改修案（代替案①）



章	4. 吉野瀬川ダム検証に係る検討の内容
項	4.3.3 遊水地+河川改修案（代替案②）
箇所	4-53 図-4.40-b 遊水地+河川改修案（代替案②）



章	4. 吉野瀬川ダム検証に係る検討の内容
項	4.3.4 放水路+河川改修案（代替案③）
項	4-56
箇所	図-4.41-b 放水路+河川改修案（代替案③）

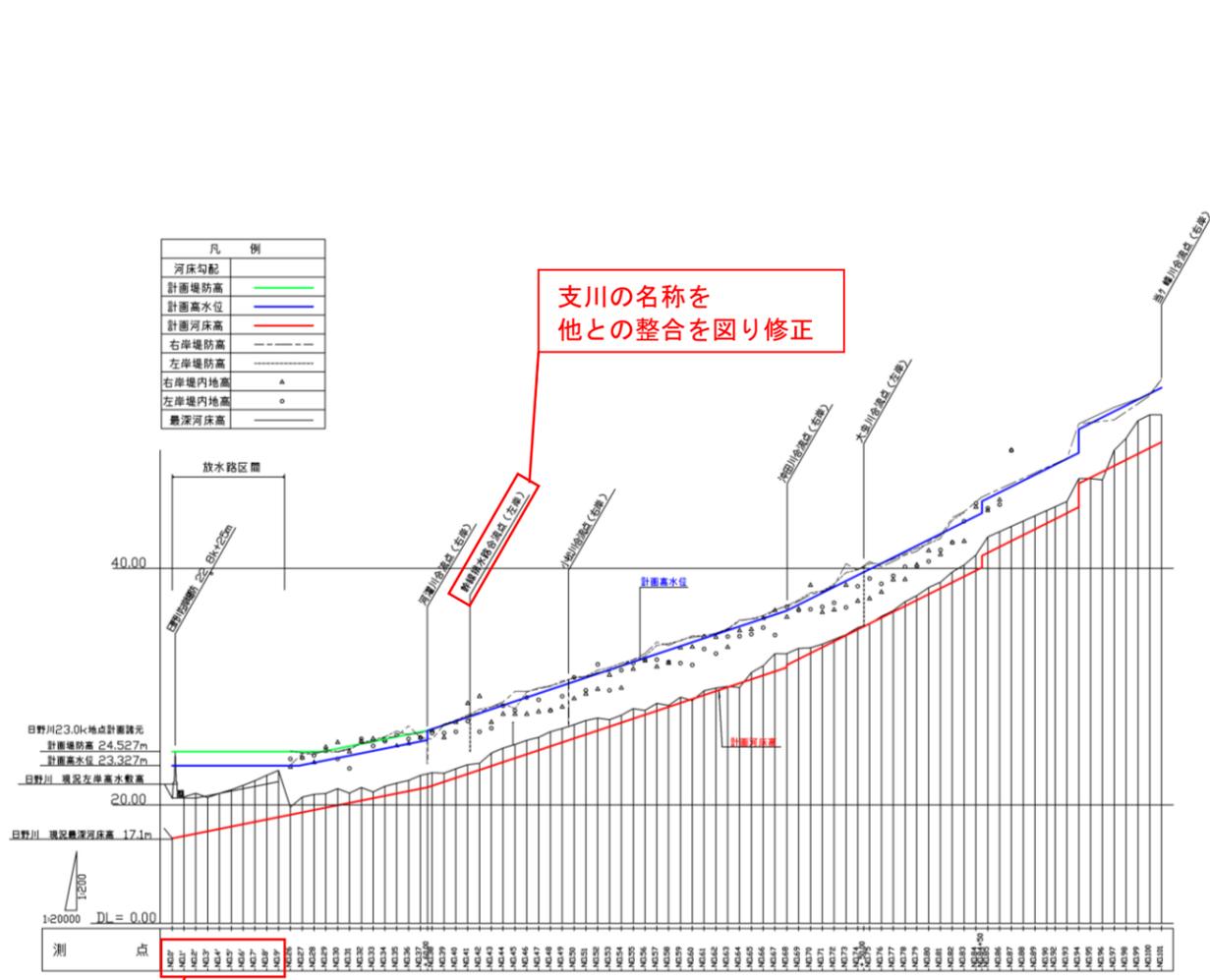
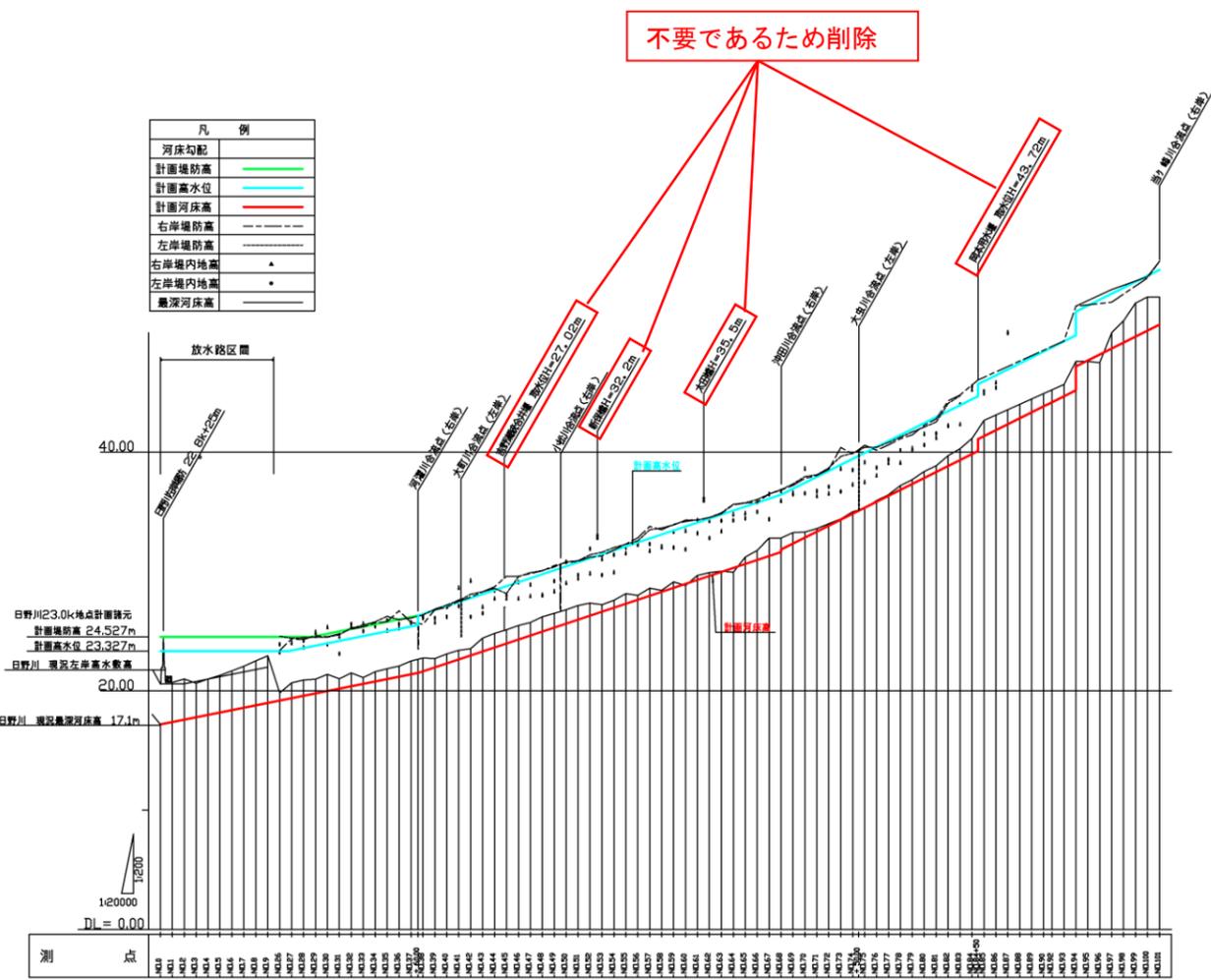


4. 吉野瀬川ダム検証に係る検討の内容
 4.3.5 雨水貯留+河川改修案（代替案④）

項 4-62
 箇所 図-4.45-b 雨水貯留+河川改修案（代替案④）

誤

正



章	5. 関係者の意見等	
項	5.2 関係地方公共団体からなる検討の場	
箇所	5-4 下から6行目	
	誤	正
	<p>【主な意見】 (関係地方公共団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピード感をもって検証結果のとりまとめをしてほしい。 ・この検証の客観性を高めるという観点から、外部の学識経験者の方に、次回から毎回ご出席いただいたらどうか。 ・スピードを上げて早期着工を目指してほしい。 ・吉野瀬川の放水路、ダム建設に合わせて、吉野瀬川への雨水幹線を併せて整備し、下流域が安心できるように県で調整してほしい。 ・吉野瀬川は治水安全度が5年未満であり、平成16年、18年には避難勧告を発令しているなど厳しい状況におかれている。ダム事業の見直しについても、流域住民のみなさんが建設促進の要望・陳情をされている現状である。流域は郊外の団地化により戸数が増えている地域である。吉野瀬川の現状をしっかりと確認してほしい。 ・精力的に住民説明会を開き流域の上下流の相互理解が進むようにしてほしい。 ・農業用水取水の考え方など十分に水利組合の意向をくんで進めて欲しい。 ・事業の見直しは、事業効果が低いものを見直すのが基本であると考え。吉野瀬川ダムは費用対効果が10.2と非常に高い。優良な事業については、優先的に予算計上し計画を早めることが公共事業見直しの考えに即していると考え。 ・代替案の検証については基本方針レベルを見据えて将来の二重投資を避ける観点が必要。 ・代替案の実現可能性を地元の関係者の声をよく聞いて見極めることが肝要である。 ・吉野瀬川ダムはいろいろな観点から見て間違いなく優良な事業であると確信できるので、粛々と検証を進めればおのずから結果はでてくるであろう。 	<p>【主な意見】 (関係地方公共団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピード感をもって検証結果のとりまとめをしてほしい。 ・この検証の客観性を高めるという観点から、外部の学識経験者の方に、次回から毎回ご出席いただいたらどうか。 ・スピードを上げて早期着工を目指してほしい。 ・吉野瀬川の放水路、ダム建設に合わせて、吉野瀬川への雨水幹線を併せて整備し、下流域が安心できるように県で調整してほしい。 ・吉野瀬川は治水安全度が5年未満であり、平成16年、18年には避難勧告を発令しているなど厳しい状況におかれている。ダム事業の見直しについても、流域住民のみなさんが建設促進の要望・陳情をされている現状である。流域は郊外の団地化により戸数が増えている地域である。吉野瀬川の現状をしっかりと確認してほしい。 ・精力的に住民説明会を開き流域の上下流の相互理解が進むようにしてほしい。 ・農業用水取水の考え方など十分に水利組合の意向をくんで進めて欲しい。 ・事業の見直しは、事業効果が低いものを見直すのが基本であると考え。吉野瀬川ダムは費用対効果が10.2[※]と非常に高い。優良な事業については、優先的に予算計上し計画を早めることが公共事業見直しの考えに即していると考え。 ・代替案の検証については基本方針レベルを見据えて将来の二重投資を避ける観点が必要。 ・代替案の実現可能性を地元の関係者の声をよく聞いて見極めることが肝要である。 ・吉野瀬川ダムはいろいろな観点から見て間違いなく優良な事業であると確信できるので、粛々と検証を進めればおのずから結果はでてくるであろう。 <p>※第1回 県・市検討会の時点では、B/C=10.2が最新の数値であった。</p>

章	6. 対応方針	
	6.2 対応方針	
項	6-2 下から 10 行目	
箇所	○事業の経緯および進捗状況	
	誤	正
	<p>○事業の経緯および進捗状況</p> <p>吉野瀬川ダム建設事業は、昭和 61 年には実施計画調査が、平成 3 年には建設事業が採択された。平成 14 年に補償基準が妥結され、現在までに水没家屋全 37 戸の移転と約 97%の用地補償が完了している。</p> <p>現在、ダム本体については調査、概略設計を完了している。また、付替道路については下流側の約 2.8km が供用済であり、現在、上流側の区間の工事を進めているところである。事業費ベースでの進捗率は約 52%となっている。</p>	<p>○事業の経緯および進捗状況</p> <p>吉野瀬川ダム建設事業は、昭和 61 年には実施計画調査が、平成 3 年には建設事業が採択された。平成 14 年に補償基準が妥結され、現在までに水没家屋全 37 戸の移転と約 95%の用地補償が完了している。</p> <p>現在、ダム本体については調査、概略設計を完了している。また、付替道路については下流側の約 2.8km が供用済であり、現在、上流側の区間の工事を進めているところである。事業費ベースでの進捗率は約 52%となっている。</p>